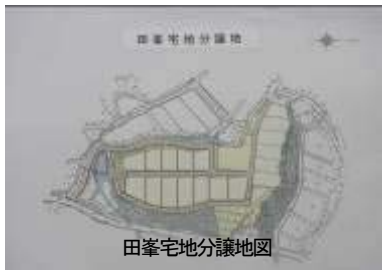




田峯小学校の全景



田峯宅地分譲地図



ブナの木々から漏れる光



実から発芽したブナ



ブナの葉と一般的な葉の比較

ブナ(左)は葉脈が外周部の谷間に伸びる。コナラ(右)は山頂に向かう。

学校は残った、ただ今宅地分譲中！
加藤 実は、宅地事業にチャレンジしたことがありません。きっかけは児童数の減少が原因による田峯小学校の廃校計画でした。学校を残さずにいかんと地区の有志が集い、平成十一年に宅地事業に取りかかりました。その目的は若い夫婦の家庭を地区に呼び込み、子供たちの数を増やすこと。平成十三年に借金をして山林を切り開き、住宅地を十七区画造成して販売までこぎつけたことがありました。それから瞬く間に七件の入居が決まり、平成十四年の田峯小学校の入学式は全校生徒十名から十九名となりました。現在は十四区画が売れ、十三件の入居までこぎつけています。このエピソードは平成十四年に読売新聞の「幸せの新聞」コーナーで記事にもなりました。事業のすべて用地交渉・測量・設計開発・立竹木の伐採・土砂の撤

去などをPTA父兄で行ったから本当に一大事業でした。予算が底について事業が止まった時もありました。宣伝費もありませんから、この宅地は不動産会社では紹介されていません。口コミだけです。(笑顔)
(森づくりの中で、特にブナの木にこだわりがありますね...)
百年後に咲かせたいブナの花
加藤 皆さんに、「どうしてブナ？」とよく質問を受けます。ブナが植林された森ではなく、原生林の象徴であること、地球温暖化により生息域が減少していることも勿論理由です。ただ、ブナには他に二つの特徴があります。一つ目はブナの森は「水源の森」ということです。その根は漏斗状に伸びるため、保水性が高くなり、治水効果として災害に強い森を作ります。また、落ち葉は硬くて腐りにくいため、しっかりと層を形成

「きららの森」を伝える
北設楽郡設楽町の田峯地区にお住まいの加藤博俊さんを訪問しました。経営される設楽測量設計事務所(何うと、奥さんとそこにお勤めの方々が爽やかに迎えてくれました。
加藤さんは測量設計士の顔以外にも、地域のボランティアガイドとして段戸裏谷原生林(きららの森)、津具地区の面ノ木園地などを案内したり、「奥三河の自然と歴史にふれあう会」の会員として自然保護活動に尽力されています。その活動を通して、大林宣彦氏や北野大氏など著名な方々との出会いもありました。
設楽町の「かたりべ」としても有名なため、講演の依頼も多く、我々行政マンもこれまでに何回も加藤さんのご厚意に甘えてしまっています。この日の取材もそんな加藤さんの優しさのお陰で実現できました。
(「自宅を新築されたそうですが...」)
加藤 一年程前に個人的な命名ですが、「地域おこしの家」を建てました。地元の木材を利用し、地元職人さんに建ててもらいました。全て地元こだわったわけです。外材は合板一枚使っていない。国産材は値段が高いと思われていますが、実はそんなことはないですよ。も



若い人に「地域に戻ってきてくれ」と言っただけでは足りない。自分たちが何かをやっている姿を見せていきたい。

でしよう。この記憶を持つ子供たちの中に自然や地域に興味を抱く人が現れるかもしれないのが楽しみです。
地域のことを知りたい欲求
加藤 二十二年間「奥三河の自然と歴史にふれあう会」の活動で希少動植物について調査してきました。しかし、希少な自然を守るため公表できませんでした。今年から年四回機関紙を発行して、その内容を発表する予定です。それから、地元のことをもっと知り尽くしたいという思いが強いですね。自分の足元を見つめ直してみたい。自分の周りに知らないことがたくさんありますから。ひとつのことをやり始めると最低十年間が必要なんです。だから歳月を経ている内にドンドンやりたいことが増えていきます。(笑)

温厚な人柄で、いつも柔和な表情を見せる加藤さんの活動に感銘し、「自身で地域振興活動を始めたい人も少なくないよつです。仕事として今回の取材に関わっていることに気恥かしさを覚えました。お仕事で忙しい中、加藤さん、設楽測量の方々に貴重なお時間をあがごうございました。(文責 宮内)



訪問日：平成22年1月5日
訪問者：山村振興課 宮内一郎

加藤さんのご自宅「地域おこしの家」

自然界において、ブナの木は標高600m以上でなければ生育しないと考えられていますが、それより低地であっても可能なことを加藤さんはブナの原生林保護活動の中から体験してきました。「きららの森」の保護だけでなく、ブナの人工林を増やすことは加藤さんの夢のひとつです。

し、地元材で家を作りたい方がみえたら我が家を見て参考にしたいなと思いますね。あと、昔住んでいた自宅はそのまま残してあります。過疎化により空き屋は増えていますが、移住を望む人が借りられる家は意外と少ないのが実状です。そのような方に借りてもらえたらと思っています。



奥さんの写真と一緒にハイポーズ

(地域振興に対する熱い思いを、ピンビシと感します...)
加藤 ここに生まれて、地元の高校を卒業後は、名古屋で土木設計を学びました。測量設計の仕事に携わり、名古屋で八年を過ごす間に、結婚しました。ところが、中学時代から田舎が好きで、自然や歴史にとっても興味があったので、Uターンして設計事務所を妻と二人で開きました。五年位で事務所も軌道に乗りました。同時に、地域へ貢献できることをしたいと考え始めたのもこの頃からです。